

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和5年11月22日

三田市議会議長 森本 政直 様

本会派(私)は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	新政みらい	代表者	
		議員名	中田 哲
派遣者氏名	厚地弘行・佐貫尚子 ・中田哲		
視察先及び 調査事項 (調査目的)	山形県尾花沢市 市民マラソンの取り組みとアーバンスポーツ施設 について		
日 時	令和5年11月14日(火) 13時00分～14時30分		
視察先対応者	社会教育課長 鈴木賢氏 社会教育課生涯学習スポーツ主査 富樫久芳氏 商工観光課観光物産係長 笹原聖志氏 議会事務局		
(調査結果の概要及び所見)			
【調査結果の概要】			
尾花沢市政の沿革 昭和34年4月10日 市制施行 これまで合併の経緯もある			
財政状況：一般会計予算 令和5年度歳入 12.742000 円			
歳出 12.742000 円			
人口推移 令和5年度 人口14282人			
令和2年時点 生産年齢人口 7280人 高齢人口65歳以上 6232人			
議会：定数14人 うち女性議員3人 最高齢72歳 最低年齢39歳			
尾花沢市の特徴： 花笠音頭で有名			
令和4年度尾花沢市ふるさと納税9億9801万9439円			
人気メニュー 尾花沢すいか 1玉8000円～			
霜降り和牛尾花沢 20000円～			
银山温泉宿泊補助券35000円～			
霜降り和牛が人気であるが、尾花沢市の肥育頭数13900頭			
人口減が大きな課題 住宅関連補助事業にも力を注ぐ。			
以上			

【所見】

三田市国際マスターズマラソンの参加者が減少傾向にある中で、新たな参加者の掘り起越しが必要と考える。今回視察した花笠マラソンでは、ウォーキングや、ファミリー等、多様な参加者のニーズにこたえるための種目を用意している。また、地元の食を楽しめるエイドステーションを設けるなど、記録を出す事よりも、楽しむことが重視された設計になっている。市外からの参加者、リピーターも多く、市民交流の場という事に加えて観光産業への波及的役割も果たしている。同日に開催される徳良湖祭りとの連携により、地元の商工業との連携を図る。ただ、走りに来るというだけではなく、その土地を楽しんで帰るという事をパッケージ化することが今後の三田市の課題であると学ぶことができた。

スケートボードやBMXを楽しめる施設も徳良湖近辺に設置されており、若者が集う好循環ができつつある。施設の導入の経緯をお聞きすると、熱い思いを持った、仕掛け人となる市民の存在が見えてくる。このような夢や思いをもった市民と、いかにパートナーシップを醸成していくかという事もこれからの行政の課題として参考にしなければならない。

会派支給の場合、会派名、代表者名を記入してください。

個人支給の場合、会派名[無会派は記入不要]、議員名[代表者名は記入不要]を記入してください。

(様式7-3)

政務調査活動・先進地調査等 報告書

令和5年11月30日

三田市議会議長 森本 政直 様

本会派（私）は、政務調査活動・先進地調査等報告書を下記のとおり提出します。

会 派 名	新政みらい	代表者	
		議員名	中田 哲
派遣者氏名	厚地弘行・中田哲		
視察先及び調査事項 (調査目的)	山形県酒田市 生成 AI 活用の現状と課題について		
日 時	令和5年11月15日(水) 10時00分～11時30分		
視察先対応者	酒田市議会 議長 高橋千代夫 様 酒田市 企画部 デジタル変革調整監 本間義紀 様 議会事務局		
(調査結果の概要及び所見) 【調査結果の概要】 1. 酒田市概要 人口・世帯数 96,777人 42,600世帯 (2023年3月末時点) 高齢化率 37.3% (2023年3月末時点) 市職員数 1,413名 会計年度任用職員含む 一般会計当初予算 令和5年度 55,200,000千円 2. 導入背景について 昨今 ChatGPT等の技術革新により生成 AI 技術の活用についての議論が活発化 ⇒条例改正やガイドラインの作成等、自治体の動きも加速。 DX 積極推進を掲げる酒田市もデジタル変革戦略室を中心に活用法、課題について検討。 『対話型 AI サービス活用ガイドライン』策定(セキュリティポリシー踏まえる) ⇒ガイドラインに基づき対話型 AI 技術を積極的(特に部課長級は)に活用し、業務効率化及び市民サービス向上等に資するものへ。 3. 酒田足対話型 AI 活用ガイドライン ① 基本姿勢 素案作成段階の参考資料としての活用にとどめる。外部への発信の際は、 担当者が根拠や正確性等を確認。 ② 対象サービス ChatGPT 及び Bird ③ 活用事例 ・文章作成 あいさつ文・一般文書・メール等 ・文章校正 誤字脱字 文章流れ 確認 ・文章要約 会議記録等要約			

- ・アイデア生成 事業提案・アドバイス、ブレインストーミング
- ・情報検索 情報の検索・調査
- ・コード生成 Excel 関数 VBA Java 等のプログラムコード生成
- ・翻訳 等

④ 留意点

- ・所属長の許可、個人情報を入力不可、密事項入力不可、差別用語・倫理に反する表現含まれないか確認、著作権侵害の確認。

○積極活用後、事例を収集⇒職員間で共有。

4. 導入にあたっての苦労

- ・上司の理解
- ・ハード面での工夫
- ・コストの節減
- ・最初の一步のサポート (チームに一人精通者の配置・育成が望ましい)

5. 今後の課題

- ① 職員によって活用度に大きな差が生じている
- ② 利用端末に限りがある
- ③ 仮想ブラウザの負担が重い
- ④ プロンプト入力(聞き方・問いの立て方)の精度が必要
- ⑤ 画像や音声への活用
- ⑥ 個人情報・機密情報・誤情報・著作権侵害のリスク管理
- ⑦ 先進事例と庁内活用情報の共有 等

6. 予算

接続機器・タブレット・ネット環境など既存のものを活用、アプリケーションも無料版を利用しているため導入費用はゼロ。

⇒今後については、さらに技術革新が日進月歩で進む可能性が高く、費用対効果、他都市の事例を見極めながら、適時適切に必要な投資判断をしていく。

【所見】

酒田市は全国でも有数のDX先進自治体であり、AI活用に関しても積極性が感じられ大変有意義な視察となった。

酒田市の現状は、コストのかからない既存の環境を活用した、いわゆるチャレンジ・お試しの段階であり、活用慣れること・職員間で活用の広がりを作るのが初期段階では重要であることが見えてくる。

そして、行政が活用の主体となるとどうしても守備的になることも要求される。個人情報侵害・著作権侵害・機密事項取り扱い・誤情報リスクをどのように回避していくのかがもう一つの大きな課題となる。

新たな技術革新がない限りにおいては、やはり人のチェックとセットとする、AIが生成したもので完結しない。(特に外部に出す際には)ことが絶対的な制約になると考えられる。利用においての生産性向上のためには、プロンプトの設定をいかにうまく作るか、たどり着きたいゴールイメージから最適な問いの立て方に注力しなければならない。コツの共有や事例・経験の積み上げにより克服するほかに方法は無いのではないと思われる。

様々にリスクや課題が伴うチャレンジとなるが、行政効率化と市民サービス向上のチャンスととらえ積極的にトライする酒田市の皆さんの姿勢に大きく感銘を受けた。

三田市においても今後の労働力不足を見込んで様々な先進テクノロジー活用と向き合っていかなければならない。